



一步踏み出す勇気

筑西市立下館中学校 三年

牛木琥大朗
うしきこたろう

「市内第三位、男子バレー部。」そう呼ばれ、「はい。」と大きく返事をする中に僕がいます。何でもないようく感じじるこの景色も、一年前の僕には決して想像もできないような景色でした。みなさんは、「自分には難しいな。」「出来ないな。」と思つたこと、諦めてしまつたことはありますか。僕も、今までそのようなことがありました。でも、中学校の三年間を通して、「頑張つてみよう。」「諦めないでやつてみよう。」と思えるようになりました。

僕は現在、毎日学校に登校しています。しかし、ここまでは長い道のりがありました。中学校の入学式の日、期待を胸に初めて教室に入ると頭が痛くなつてしましました。そこから一年間、学校の雰囲気が嫌になり、ほとんど学校に行くことが出来ませんでした。

二年生になり、オンラインで授業を受けたり、クラスの友達と少し話したりすることができるようになつてきました。しかし、教室に入ることは僕にとって高い壁のようく感じられ、なかなか足を踏み出せませんでした。それでも、クラスメイトは、機会があれば優しく話しかけてくれ、分からぬことがあります。教えてくれました。また、一緒に給食を食べることもあり、少しずつ、学校に対する嫌な気持ちが和らいでいきました。僕の中にもみんなと一緒に教室で過ごしたい、そんな気持ちが生まれ始めました。あるとき、僕がクラスに入れるようになるきっかけとなつた出来事がありました。最近の学校での話を父としているとき、不意に父が「運動不足は良くないから。」と部活動への入部を提案してくれました。この言葉を聞いて、

僕自身も元々部活動に興味があつたこと、一年生の頃には挑戦することが出来なかつたことを思い出しました。また、一緒に給食を食べてくれた先生とクラスの友達がバレー ボール部に所属していたので、自然とバレー ボール部という選択肢が頭に浮かびました。

「一年生の三月、あと五、六ヶ月で引退という時期にバレー ボール部に入部してもよいのだろうか。」僕は毎日そんなことを考えるようになりました。しかし自分の中で、変わりたい、そんな気持ちが大きくなつてきているのも事実でした。そして、たくさん悩んだ末に僕はバレー ボール部に入部することを決めました。

バレー ボールとの出会い。この出会いこそが、僕の人生を大きく変えてくれました。もちろん、僕が変われたのは、周りの先生方、友達、家族の支えがあつたからこそだと思います。

みなさんも、もし「自分には難しいな、出来ないな。」と思つたときには、すぐに諦めるのではなく、出来ることからチャレンジしてみてください。やる前から諦めたり、一步を踏み出せずにはいることがあつても、小さなことから、まずはやつてみることが大切だと僕は自分の経験から学びました。自分を変えるような出会いは意外と身近にあるのかも知れません。だからこそ、この主張を聞いているみなさんがどんなことにも積極的に取り組んでみようと思つてくれると嬉しいです。

バレー ボールは、チームで行うスポーツです。声を掛け合ひ、プレーします。これまで大きな声を出すことがなかつた僕にとって、掛け声などで声を張ることが、人とコミュ